

受賞者のことば

このたび AAF (Asian Architecture Friendship) の活動に対しまして自由都市・堺 平和貢献賞という大きな評価をいただきましたことは大変光栄なことであり、ご推挙いただきました選考委員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

世界的に見て、現代の建築的状況は極めて不均衡で偏った様相を呈しています。多額な資金を投じ大規模な開発や建設が繰り返される国がある一方で、最低限必要な教育施設や医療施設さえなく、学校へ行きたくても行けない子どもたち、ちょっとした病気や怪我で命を落とす人たちがまだまだ大勢いる国があります。

AAF は、建築の設計を専門とするメンバーが中心となって、建築を通じてそういった状況を少しでも改善したいとの思いで、1999 年から計画を始め、2000 年からネパールで学校等の建設支援活動を続けております。

私たちの活動を知っていただくことで、少しでも多くの方々の目がその不均衡に向けられ、問題意識が高まれば、今回の受賞はより有意義なものになると考えます。

設立当初の AAF は、建築については専門ですが、海外のボランティア活動については素人同然の組織であり、計画はそう簡単には進みませんでした。何度も挫折しそうになり、工事を中断したこともありました。あきらめず、粘り強く活動を継続していき、2003 年にヒマラヤのフィリム村に 11 の教室を持つ小学校から高校までの学校を建設、2006 年にはポカラで教員を養成する女子大の学生寮、2009 年には同じくフィリム村に寄宿舎や食堂などの施設を実現し、2015 年には特定非営利活動法人の認証を取得しました。現在は 2015 年 4 月のネパール中部大地震で被災した建物の再建工事を進めております。

AAF の活動は日本の多くの方々からの寄付と外務省や協賛団体からの資金協力等により、成り立っています。ボランティア活動については全くの初心者であった私たちを暖かく見守っていただき、ご支援・ご協力いただいた全ての方々に深く感謝の意を表したいと思います。



明るい教室で



先生たちと一緒に



現地で打ち合わせをしている様子